

品目	2013年度 (実績)		2014年度 (見込み)				2015年度 (見直し)		コメント				
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%					
			10億円	伸び率%	10億円	伸び率%							
総額	84,613	+17.4%	41,329	+2.5%	43,340	▲2.2%	84,669	+0.1%	↑	85,884	+1.4%	5年連続増加、2年連続で過去最高を更新。	6年連続増加、3年連続で過去最高を更新。
IM 01 食料品	6,513	+9.4%	3,421	+3.9%	3,519	+9.2%	6,940	+6.5%	↑	7,229	+4.2%	魚介類及び同調製品…円安進行に加え、中国を中心とする世界的な需要の高まりから、えび、さけなどの主要品目の価格が上昇し、金額は増加。 肉類及び同調製品…米国の豚、牛の価格の上昇により、金額は増加。 小麦およびメシリン…為替要因により金額は増加。	魚介類及び同調製品…主要品目において需要が供給を上回る環境が続くため、価格は上昇し、金額は増加。 肉類及び同調製品…米産、豪州産牛肉の供給量の減少に加え、豚肉、鶏肉で在庫調整から数量が減少し、金額は減少。 小麦およびメシリン…円安による価格上昇が見込まれ、金額は増加。
魚介類	1,485	+7.5%	754	+3.0%	859	+13.9%	1,613	+8.6%	↑	1,791	+11.0%	えび…主要生産国で発生している病害(EMS)の影響で供給量が回復していない。中国が輸入数量を増やしていることもあり、価格の上昇基調が続く中、数量減少の影響が大きく、金額は減少。 まぐろ…円安の影響により価格が上昇しているため、金額は増加。 さけ…2014年が不漁だったため、数量は減少するが、世界的な需要の高まりにより価格の上昇幅が大きく、金額は増加。	えび…主要生産国における病害の影響緩和が見込まれ、数量は増加。中国を中心とする世界的な需要の高まりから価格の上昇基調は続き、金額は増加。 まぐろ…円安の影響により価格が上昇し、金額はやや増加。 さけ…2015年は豊漁が見込まれるため数量は増加。引き続き、世界的な需要の高まりにより、価格は上昇、金額は増加。
肉類	1,186	+11.4%	697	+14.7%	654	+13.2%	1,351	+13.9%	↓	1,322	▲2.2%	豚…感染症のまん延を背景に供給量が減少しており価格が上昇。2014年度上期より輸入数量が減少するも、金額は増加。 牛…米国の供給量が戻らず価格上昇。数量はやや減少するものの、価格の押し上げ効果が大きく、金額は増加。 鶏…豚・牛の価格上昇に伴い、鶏の需要が高まり、数量が増加。需要の高まりに伴い、価格も上昇し、金額は増加。	豚…在庫調整により価格上昇が頭打ち。価格は例年水準に戻り、数量が減少し、金額は減少。 牛…米産供給量の回復が見込みにくいことに加え、豪州産供給量が減少することも予想され、価格は上昇。数量は減少するものの、価格の上昇幅が大きく、金額は増加。 鶏…在庫調整により数量は減少。それに伴い価格も低下し、金額は減少。
IM 02 原料品	5,541	+16.2%	2,833	+0.3%	2,503	▲7.9%	5,336	▲3.7%	↓	4,984	▲6.6%	鉄鉱石価格の下落が金額を下押し。	引き続き鉄鉱石価格低迷が重し。
鉄鉱石	1,778	+21.7%	853	▲4.6%	733	▲17.0%	1,586	▲10.8%	↓	1,288	▲18.8%	粗鋼生産量は2013年度並みが見込まれているため鉄石消費量は横ばい。 鉄鉱石価格の大幅下落を背景に、円安にもかかわらず金額は減少。	2014年度の傾向が継続。
非鉄金属鉱	1,419	+6.0%	787	+6.1%	716	+5.7%	1,503	+2.2%	↑	1,598	+6.3%	生産は2013年度と同程度で数量は横ばいだが、円安により増加継続。	精錬所の定期補修は2014年度よりも軽微となるため生産量は増加。 銅価は安定的だが為替の円安定着で金額は増勢。
IM 03 鉱物性燃料	28,411	+15.2%	13,020	▲0.1%	12,780	▲16.9%	25,800	▲9.2%	↓	24,282	▲5.9%	2014年4月の消費増税に向けた輸入増の反動減、精製設備の定修、発電電力量の減少等により、全体として輸入数量は減少。 資源価格の下落により、輸入単価も低下。 金額は2009年以来、5年ぶりに減少。	節電や平均燃費の改善等、省エネによるエネルギー需要の低下により、発電電力量は微減となり、鉱物性燃料の輸入数量も横ばい ないし微減。 円安による輸入単価の上昇はあるが、資源価格の続落もあり、全体としての金額は減少。
原油及び粗油	14,826	+18.4%	6,567	▲3.5%	6,261	▲21.9%	12,829	▲13.5%	↓	12,056	▲6.0%	2014年度上期は、設備の定期修理、消費増税の影響に加え、冷夏による発電需要低迷等もあり、数量は減少。資源価格の下落と円安の影響がほぼ相殺し、輸入単価は横ばいとなり、輸入額は減少。2013年度下期は消費増税の駆け込み需要により輸入数量が増加したため、今年度下半期の数量は反動減の影響により減少。資源価格の下落により輸入単価も下落し、輸入額は大幅に減少。	日本の石油需要の減少傾向の継続石油火力発電量の減少等により輸入数量は微減。 資源価格の下落も続くことから、輸入単価も下落し、輸入額全体も減少継続。 加えて原子力発電の復帰により石油火力向け需要も低下し、引き続き減少が続く。
石油製品	2,712	+4.0%	1,274	+7.6%	1,472	▲3.7%	2,746	+1.3%	↓	2,578	▲6.1%	2014年度は、石油精製設備の定期修理等が重なったため、ナフサの輸入が増加。価格の高止まりに円安も加わり、金額は増加。	原発再稼働および節電により、電力会社向け燃料としての重油輸入量は減少。 円安と資源価格下落の影響により輸入単価はほぼ横ばいとなり、輸入額は微減。 原油価格は下落も、円安による輸入単価上昇により、輸入額は横ばい。
LNG	7,343	+18.2%	3,670	+8.7%	3,418	▲13.8%	7,088	▲3.5%	↓	6,494	▲8.4%	LNG輸入量は2013年度並み。 輸入金額は下期の資源価格下落の影響はあるが、円安により相殺される見込み。	LNG輸入量は一部原発の再稼働により2014年度比で減少。数量減に、資源価格下落に伴う輸入単価下落も加わり、輸入額は減少。
LPG	1,119	+5.1%	483	+5.7%	511	▲22.8%	994	▲11.2%	↓	967	▲2.7%	価格…上期はCPも堅調に推移し、為替も円安のため上昇。下期は円安が進むも資源価格下落により下落。 数量…都市ガス用、化学原料用の需要増により家庭用、自動車用等の需要減を相殺し、全体では微増。	価格…円安による輸入単価上昇はあるものの、資源価格の下落により輸入単価は微減。 数量…家庭用、自動車用、化学原料用では需要の減少傾向を見込むが、増熱用を中心とした都市ガス用や一般工業分野で需要増を見込むことから、全体では横ばい。
石炭	2,342	+5.3%	987	▲16.8%	1,022	▲11.6%	2,008	▲14.2%	→	2,004	▲0.2%	価格…円安下にもかかわらず、一般炭が下落に転じ、原料炭も下落幅拡大。中国の調達抑制と豪州産炭産出量の高止まりを主因とした世界的な供給過剰が背景。 数量…火力発電の頭打ちに伴い、一般炭の増勢が弱まり、原料炭が2013年度の大増の反動により減少。 この結果、金額は1割超の減少。	価格…円安による押し上げ、海外景気の持ち直しにより、原料炭が下げ止まり、一般炭も下落率縮小。 数量…鉄鋼生産が高水準を維持する中で、原料炭は再び増加。しかし、原発再稼働が徐々に進み、一般炭の数量が小幅ながら4年ぶりに減少することから、石炭全体では横ばい。 この結果、金額は微減。
IM 04 化学製品	6,612	+9.4%	3,461	+5.6%	3,783	+13.4%	7,244	+9.5%	↑	7,567	+4.5%	国内需要は堅調を維持。 一部品目(医薬品や汎用品等)の輸入増加が継続、さらに有機化合物で一部生産設備の停止代替も見込まれ、数量は高水準を維持。円安も金額を押し上げる。	大きな傾向は変わらないが、2014年度に一部プラスチック製品(フィルム、シート、袋等)等で見られた消費税率引き上げ後の落ち込みが消え、また景気回復に伴い数量が増えることで金額も増加。
IM 05 原料別製品	6,576	+19.0%	3,482	+8.7%	3,615	+7.2%	7,097	+7.9%	↑	7,651	+7.8%	内需伸び悩みにより数量増は期待できないが、円安による価格押し上げ効果で金額増勢は緩やか。	円安による価格押し上げ効果で増勢は続く。
鉄鋼	887	+15.6%	491	+21.5%	555	+14.8%	1,045	+17.9%	↑	1,111	+6.3%	供給圧力が強い韓国・中国からの輸入数量増加の傾向が続く上、円安により価格は上昇。	円安の進行に伴い、数量は頭打ち。輸入価格上昇により金額は増加。
非鉄金属	1,591	+15.8%	848	+5.8%	835	+5.8%	1,683	+5.8%	↑	1,837	+9.2%	アルミニウム…円安効果により金額は増加。 白金族…南ア鉱山ストによる影響で上期の輸入量は減少したが、下期には回復する見込み。	円安の影響で金額は増加。 白金族…価格上昇と円安により金額は増加。
織物用糸・繊維製品	889	+22.3%	461	+6.0%	467	+7.2%	948	+6.6%	↑	1,008	+6.4%	円安に伴う価格押し上げにより、金額は引き続き増加。 ただし、円安ペースの減速、国内景気の低迷、国内メーカーによる原材料在庫圧縮の動きから、伸び率は鈍化。	調達の重心が低コスト生産国へシフトしている影響が強まり、価格面での抑制要因となるものの、円安傾向の持続(価格押し上げ)、国内景気の持ち直し(数量押し上げ)により、金額は2014年度並みの伸びに。
非金属鉱物製品	719	+22.2%	366	+4.5%	394	+6.9%	760	+5.7%	↑	791	+4.1%	円安による価格押し上げ効果により、金額は緩やかに増加。	円安による価格押し上げ効果により、金額は緩やかに増加。
IM 06 一般機械	6,399	+25.3%	3,250	+8.1%	3,602	+6.2%	6,852	+7.1%	↑	7,328	+6.9%	パソコンの駆け込み需要の反動による落ち込みはあるものの、一般機械の需要は底堅く、円安を背景に金額は増加。	パソコンはOSサポート終了に伴う需要先食いの影響により小幅減となるが、一般機械全体では、設備投資の増加、円安を背景により増加。
電算機類(非周辺機器)	2,068	+21.0%	950	+4.4%	1,057	▲8.8%	2,007	▲3.0%	↓	1,950	▲2.8%	消費増税やパソコンOSのサポート終了に伴う駆け込み需要の反動を主に、数量が大幅な落ち込み。 円安や、法人向けを中心としたパソコンのハイスペック化により、単価上昇が続いているものの、金額は5年ぶりに減少。	7月のサーバーOSのサポート終了を控え、年度初めに法人による駆け込み需要が出るが、全体的には、パソコンOSのサポート終了に伴う需要先食いの反動が尾を引く中で、引き続き減少。
IM 07 電気機器	10,971	+26.4%	5,294	+3.7%	6,348	+8.3%	11,642	+6.1%	↑	12,399	+6.5%	需要回復、円安効果により、金額が増加。 通信機…数量で微減、円安効果により、金額は増加。	増加。 通信機…格安スマートフォン、世界標準スマートフォン等による需要拡大要因および円安効果により増加。 半導体等電子部品…需要伸び悩みにより数量が減少。 重電機器…設備投資増加と円安を背景に増加。 音響映像機器、家庭用電気機器…消費税の駆け込み需要の回復および円安の影響により増加。
半導体等電子部品	2,686	+44.1%	1,385	+8.1%	1,471	+4.7%	2,857	+6.4%	↑	2,921	+2.3%	IC…国内景気の緩やかな回復に伴い、数量は増加。円安の影響もあり価格は上昇し、金額は増加。 2013年度は光電池用モジュールの輸入が急増したため、全体を大きく押し上げたが、2014年度は伸びが一服したことから押し上げ効果は限定的。	IC…円安により価格が上昇するものの、国内需要が伸び悩むため数量は減少し、その結果、金額はやや減少。 スマートフォン、タブレットの買い替えサイクル一服、国内メーカーの携帯電話事業からの撤退、エレクトロニクス製品の完成品輸入割合の増加などの需給環境に大きな変化が見られないものの、価格の上昇、光電池用モジュールの輸入に支えられ、金額はほぼ横ばいで推移。
通信機	2,771	+22.3%	1,149	▲8.0%	1,650	+8.5%	2,799	+1.0%	↑	3,040	+8.6%	微減傾向。 下期は増加しているが、数量増ではなく円安を勘案。	SIMロック解除が2015年5月に実施される見通し。仮想移動体通信業者(MVNO)の出現、これによる通話料の下落、格安スマートフォン増加の可能性など変動要素が多い。 根強い人気の高機能スマートフォンに加え、格安スマートフォン/世界標準スマートフォンの輸入が加わり、地上局などへの需要も底堅く漸増に加え、円安が進んで金額は増加。
IM 08 輸送用機器	3,019	+29.3%	1,364	▲3.3%	1,515	▲5.7%	2,879	▲4.6%	↑	3,033	+5.3%	自動車、航空機が減少。 自動車の減少は消費増税前の駆け込み需要の反動による。	自動車、航空機ともに需要は堅調。 円安の影響もあり、増加を見込む。
自動車	1,165	+24.5%	514	▲3.3%	603	▲4.8%	1,117	▲4.1%	↑	1,195	+7.0%	消費増税前の駆け込み需要の反動で、減少。 特に最近輸入が増えていた小型車(低価格帯)は数量で20%近く減少。一方高価格帯の数量は微減。	近年の外国メーカーのシェアは約10%と一定の市場を確保。景気回復に伴い、新型車を中心に増加。
航空機類	743	+33.9%	294	▲20.9%	328	▲12.0%	621	▲16.4%	↑	658	+5.9%	当初LCCを中心に航空機関連の輸入は高水準で推移すると見込んでいたが、経営不振やパイロット不足の問題から延納、キャンセルが相次いだため輸入は減少。	堅調なLCC需要、円安の影響もあり若干の増加。
IM 09 その他	10,572	+17.2%	5,202	+1.0%	5,675	+4.7%	10,878	+2.9%	↑	11,411	+4.9%	衣類及び同付属品…下段参照。 雑製品…多くの品目で消費税率引き上げ前に輸入が膨らんだ反動が見られるが、落ち込み幅は必ずしも大きくない。円安が輸入価格を押し上げ、金額の増加に寄与。 精密機器類では医療機器やコンタクトレンズが伸長、液晶関連は下げ止まりの状態が続く。 特殊取扱品…ほぼ例年並み。	衣類及び同付属品…下段参照。 雑製品…円安による輸入価格の上昇に加えて景気回復で輸入数量も緩やかに増加。
衣類・同付属品	3,317	+20.5%	1,622	▲4.0%	1,641	+0.9%	3,264	▲1.6%	→	3,258	▲0.2%	消費増税などに伴う家計の実質所得の減少や消費者マインドの悪化を背景に、国内需要が低迷し、輸入数量も落ち込み。 円安に伴う価格上昇はあったものの、金額は減少。	円安による価格押し上げが続くが、実質所得の減少基調が続くと、円安下で高級品などの縫製拠点の国内回帰が広がることから、金額は引き続き減少。
製品輸入	44,148	+51.9%	22,054	+4.2%	24,538	+6.7%	46,592	+5.5%	↑	49,389	+6.0%	55.0%(前年度比+2.9ポイント)	57.5%(前年度比+2.5ポイント)

*2014年度上半期の実績は9桁速報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している